資料2

響陽会館複合交流施設整備に関する基本的方向性

課 題

- 施設の老朽化と更新（響陽会館・NPOセンター）
- 施設利用者数の減少（ホール・会議室稼働率等）
- 西山公園を中心としたまちなかエリア全体の魅力向上とにぎわい創出

ニーズ

- **天候に左右されない子どもの遊び場**
- 公園としての機能や、観光施設、避難所など多様化するニーズへの対応

これからの公共施設

- **機能の複合化**　・**利便性、快適性**を重視
- 多様なニーズに応えるためのサービスの充実
- 「利用できる」から「**利用したくなる**」施設
- 利用者が楽しく過ごせるための質の向上　→　**付加価値**

施設単体ではなく、エリア全体（面）で考え計画することが重要

響陽会館を複合交流施設にリニューアルします！

こどもの遊び場 × **NPOｾﾝﾀｰ 市民主役所** × **みんなのホール**

雨でも雪でもいつでも遊べる
親子で楽しめる屋内型遊び場

みんなが主役
みんなの「やりたい」を応援

今までの施設機能はそのまま
よりみんなが使いやすいホールに

間部詮勝公が「領民の憩いの場を」と造成した響陽渓。造園するにあたり詠んだ漢詩に「与衆同楽」とあります。
「与衆同楽」とは領民とともに楽しみを同じにしようという意味。
この詮勝公の想いを西山公園と共に次の響陽会館にも受け継いで、みんな誰もが楽しめる施設整備を進めます。